

心温まる人形劇に感激 人形劇おひさま劇場



子どもたちの目がキラキラ



コミカルな人形劇に笑いがあふれる

コミカルに動く人形と、役に合わせて声を変える人形劇に、子どもも大人も釘づけ。会場には大きな歓声と多くの笑顔があふれました。

6月14日、親子でアートを楽しむ会「おひさま」（田口郁江代表）の主催で、人形劇団クルルテ（大阪市）のおひさま劇場が開かれました。

人形劇は、2人の劇団員が何体もの人形を操り、それぞれに声を変えて演じられるもの。会場のひのっこ保育所では、園児や子育て支援室おひさまひろばの親子のほか、町外からも多くの親子が鑑賞し、楽しいひとときを過ごしました。

同保育所では、「あひるさんのぼうし」「森のゆうびんはいたつ」の2本が上演され、園児らは、友達と顔を見合わせながら喜び、歌が流れると手拍子で盛り上げました。

また、夜には会場を町文化センターホワイエに移し、昼とは違った演目が上演され、ここでも夢中で人形劇に見入る親子でにぎわいました。

力作がそろい、見る者をあきさせない展示会 第10回日野町文化展が開かれる

日野町内で活動する文化団体の作品が一堂に展示された第10回日野町文化展が、6月15日から17日までの3日間、山村開発センターで開かれました。

これは、日野町文化団体連絡協議会（植木正枝会長）が主催しているもので、毎年、各団体や個人の日ごろの活動の成果を発表する場として開かれています。

会場には、見事な生け花や愛くるしい表情を見せる石こけしのほ



故松田さんの大きな絵が来場者の目を引く



力作ぞろいの展示会に多くの人々が来場

か、ちぎり絵、墨彩画、書、陶芸、写真、パッチワークなどが会場いっぱい展示され、見る者をあきさせない内容でした。

また、故松田泰彦さんの遺作の絵画3点が展示され、来場者は松田さんをしのびながら、眺めていました。なかでも、たくさんヒマワリと庭でたたく愛犬を描いた大きな作品が来場者の目を引き付けていたようでした。



【木のおもちゃ出前講座】



苦戦しながら糸のこで板を切る児童



講師の小黒さん（右）

子どもたちも「挑戦」、家族も「ふれあい」
『木のおもちゃ』の完成を期待して取り組む姿
木のおもちゃ出前講座と木のおもちゃづくり教室

「挑戦」

6月21日、根雨小学校で木のおもちゃ出前講座が開かれました。これは、町内を中心に活動している木のおもちゃづくりグループ（金田美紀代表）が主催し、根雨小学校6年生を対象に、毎年行われている講座で、今年で9年目になります。

講師は、第1回目から訪れている岡山県倉敷市在住の組み木デザイナー、小黒三郎さん。例年、動物組み木を制作していますが、今年には『昇り人形』に挑戦しました。昇り人形は2本のひもでつり上げた組み木を、交互にひもを引くことで昇り出す仕組み。児童は自らデザインした一枚の板を、苦勞しながら糸のこを使って切り、丁寧にやすりがけと色とりどりに着色し、一日がかりで完成させました。苦勞する児童に、同グループの会員らは「ゆっくり切れば大丈夫

【木のおもちゃづくり教室】



親子で糸のこに挑戦「お父さん、頑張ってる」

夫」「もう少しだ、頑張ろう」などどやさしく声をかけました。完成後は小黒さんが作品一つ一つにデザインの発想を褒め、着色などをアドバイスするなど好評。児童らは完成にほっとし、笑顔があふれました。

「ふれあい」

また、6月22日には、家族で木のおもちゃづくりに親しんでもらおうと、町図書館を会場に、木のおもちゃづくり教室が開かれました。

町図書館が主催し、年1回、岡山県倉敷市在住の組み木デザイナーの小黒三郎さんを講師に行われる同教室には、町内外から7組

の家族が参加し、昇り人形に挑戦しました。

小黒さんは参加者に「何を登らせたいか。発想でおもしろさが決まる。アイデアを練ってほしい」と指導。参加者らは動物やアニメのキャラクターなど思い思いにデザインし、3時間ほどで完成させました。

完成後は小黒さんが一つ一つに「形が素晴らしい」「とても良い色づけだね」「大人にはできない子どもらしいデザインだ」などと講評を行い、参加者はうれしそうに照れ笑いを見せました。

子どもたちは早速遊びだし、自分が手作りした木のおもちゃを気に入ったようでした。